

やったことを何度も何度も復習し 知識を定着させることが重要

N大学 Y.Tさん

110回国試では一般があと1点足りなくて落ちました。私は9月から国家試験までの約半年間、友人と朝から夜まで図書館に籠り勉強をする生活を続けていて、直前の模試でもなんとか合格できそうな成績でした。全く勉強しなかったとか、何十点も足りなかったのであれば諦めもつきます。合格まであと1点、その1点は何が足りなかったのか、110回で失敗し111回を合格した立場から振り返ってみたいと思います。

インプット偏重の学習

110回の失敗の最大の要因は、インプットに偏った学習をしてしまったことでした。予備校のネット講座を取っていましたが、ネット講座は5年生で配信される講座に加えて、6年生になっても直前期末で次から次に講座数は追加されていきます。この膨大な数の講座を消化することを最優先にしてしまって、学んだ知識をQB演習などを通してアウトプットすることを疎かにしてしまったのです。

演習を通じ知識をアウトプットしていなかったため、知識がきちんと定着しないだけでなく、どの知識が重要なのか、どこが良く問われているのかがいまいち分からないままでした。演習を行う時間を最後まで十分に取ることができず、曖昧な知識で国家試験に望むことになってしまったのです。

曖昧な知識は本番で命取り

国家試験はただでさえ緊張します。その緊張感の中では、曖昧な知識というのは命取りになります。もしかしたらこっちが正解だったかもしれない、なんだか聞いたことがあるかもしれない、聞いたことない選択肢だけどこれを知らないのは自分だけかもしれない、と疑心暗鬼になり全てに自信が持たなくなってしま

のです。

そこに追い打ちをかけるよう、国家試験当日に、予備校の有名講師から翌日の予想メールと当日の講評が送られてきました。難しくできなかったなと思っていたのに、講評には「よく考えさせる良問ぞろい」といった文言が並んでいるのです。110回当時はそれを見て、できてないのは自分だけだと思込みメンタルがだいぶやられました。

その結果、普段ならあり得ないようなミスを連発し、また、冷静に考えれば解けるような問題や基本的な問題でも失点を重ね、結果として不合格となってしまいました。

アウトプットで自信がついた

そこで、国家試験浪人中とはとにかく同じ知識を何度も何度も繰り返し反復学習し、QBオンラインやQuickCheckを使って知識をきちんとアウトプットすることに重点を置きました。そうしたところ、学習したことがきちんと定着し、自信をもって問題を解くことができるようになっていきました。

国家試験本番でもその自信は生きてきます。本番で知らない知識が出て、「こんな問題知らん」と開き直って諦めることができました。結果、そういった問題は正答率も低く、合否を分けるような問題とならなかったです。

1回失敗したからこそ、より分かるのですが、重要なのはやったことを何度も何度もしっかり復習し知識を定着させることです。国家試験はみんなができる問題をしっかり解ければ合格します。手を広げすぎず、一度学習したことを確実に自分のものにしていけば必ず合格できると思います。

あやふやな知識でのぞんでしまった

T大学 S.K.さん

108回国試では必修が1点足りず、落ちてしまいました。自分なりに落ちた理由を考えてみました。①必修を意識しなかったこと、②復習を怠ったこと、③何となく問題が解けてしまうことに安心していたことが敗因だったと思います。

必修を意識していなかった

必修の勉強は他の科と重なるところも多く、日頃の勉強をしていれば、あとは問題集を解いて十分なはず。周りで必修を90%台後半とれた人はみんなQB必修の3冊を普通に解いた以外に特に対策はしていませんでした。でも普段からきちんと勉強を積み重ねることが難しいのですよね。自分は必修を意識しなくてもよいほどの勉強をしていなかったのに、基本的には各科目の勉強をすればよいと思ってました。

復習を怠った

今思うと復習がどう考えても足りず、無謀でした。ノート作りにはまり、作業に夢中になっていました。調べ物からのコピーを貼り付け、色分けも気合いを入れ、見た目はカオスでしたが、自信のノートでした。ひとつ作り終わると次の科目に進み、たまっていくのですが、見返すことはあまりしなかったです。なんだかんだ言って6年生は忙しいです。マッチングを頑張って、部活で東医体に出て、卒試の勉強などしていると、あっという間に秋どころか冬になってしまいます。計画は立てていたのに、ノート作りは何かと全科目終わらせましたが、内容を吸収していませんでした。

何となく解けてしまうことに安心していた

実際は勉強不足なのに焦らなかったのは、模試の出来が悪くなかったからです。

知識があやふやでも、問題を理解していなくても、特に臨床問題は雰囲気でも何となく解けてしまうことが多いです。模試は違う会社のものを複数回受けたのですが、どれも一応安全圏で、余裕ではなかったですけど、本番もこの調子で行けるだろうと思っていました。

本番では、違和感

一般と臨床は模試より難しく感じました。必修はそれほど難しいとは思わなかったのですが、時間が余ってしまったのもあり、見直しを2、3回していると、迷いがどんどん出てくるのですよね。しっかりとした知識が欠けてたので、迷いに迷いを重ねて、変な選択肢を選んでしまいました。必修は新しい問題が出やすいので、見たことがない問題に振り回され、焦って他の問題の選択肢も疑ってしまいました。

それでも本番直後は必修で落ちたとは思わず、一般の方が心配でした。実際には一般と臨床は安全圏でしたが、必修では迷った問題をほとんど間違えていて、不合格になりました。

掘り下げる勉強を

必修は診断がはっきりしない問題が比較的多く、鑑別を考えたり、検査の優先順位をつけることを求められたりします。ふわふわした知識で臨むと、緊張や疲れによって普通しないようなミスも増えます。私は3日目の後半が一番出来が悪かったです。今回は必修で落ちましたが、中途半端な知識だと、一般や臨床も焦ってしまっていたら危険だったかもしれません。次回に向けては、病態生理からしっかり勉強するのと、問題文と解答を軽く読み流すような勉強法はやめて、選択肢一つ一つを考える勉強をしたいと思います。